

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.30

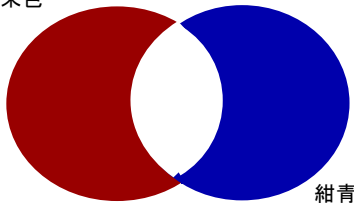
일한 시민 네트워크 · 나고야

2005-8-6

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

1. 巻頭特別寄稿 _____ 鄭煥麒さん
2. 事務局通信 _____ 統括幹事：後藤和晃
3. ニュース _____ 事務局
4. 会の活動報告とお知らせ _____ 事務局
5. 会の行事参加者の声 _____ 参加者の皆さん
6. 会員の広場 _____ 会員の皆さん
7. ソウル便り _____ 二日市 壮さん

巻頭特別寄稿

◎ 祖国の変化を喜ぶ _____ 民団常任顧問 鄭煥麒氏

あゝ 朝鮮王朝時代・・・

儒教の教えに厳しい李朝時代、両班階級は人の前で歌う歌い手とか芸をする役者、つまり、芸能人や絵を描くのを職業とする人、そして塗りもの、焼き物など、工芸品を手先の技術で物を作る人たちを賤しい職業とみなし両班階級は彼らを見下していた。

英知と創意・民族固有の精気を秘めた高麗朝の青磁や李朝の白磁など国宝、または国宝級の壺の製作者は無名の、陶工が無心無欲の境地でつくった作品である。陶工は社会的に評価されていないので、子孫に悪影響を与えていると思っ「銘」を刻まなかったとも言われている。だから製作者の「銘」は刻んでない。技術者をただの職人扱いしていたのだろう。

日本では、手先や機器で物を作る技芸の奥義、秘伝を親が子に伝授し、何百年もその伝統を受け継ぐ。親の業を守り継ぐことが、昔から家門



の誇りとして定着していたのだ。人々も彼らを名工と称え敬ってきた。

朝鮮では、職業が社会に評価されなかったので名工の技も一代限りであった。

拉致された陶工は(皮肉なことに)日本に来て脚光を浴びた！

豊臣秀吉が1592年、朝鮮を侵略した(壬辰倭乱)(日本は文禄・慶長の役)とき朝鮮で身分の低い陶工を多数日本に拉致した。領主たちは、これら陶工たちの技術を高く評価し、優遇したので薩摩焼、有田焼などが生まれ陶芸国日本の名は大いに高まった。

司馬遼太郎著「故郷忘じがたく候」に記述されているように拉致された多くの人たちは一様に帰国を望んでいた。だが、朝鮮は身分制度が徹底しており一部の両班と呼ばれる特権階級が長年大多数の常民、賤民をムシけらの如く使役してきた。拉致された陶工らは母国に帰れば両

班の奴隷にひとしい身分に再び戻り酷使されるので、結局は帰国を拒んだとも言われる。

李朝の為政者や特権階層は技術者や軍人を疎かにし冷遇したので、韓国の近代化が後れたのは言うまでもない。

“韓流”の俳優が果たす韓日友好

「冬のソナタ」の主演裴勇俊が来日の際ファンの熱狂的な歓迎を受ける。この「韓流」ブームが一衣帯水の韓日両国民に真の理解と友好親善に大いに役立つのではないだろうか。

日本の首相、小泉純一郎総理は最近、純様人氣が落ちたので「冬ソナ」の主演、ヨン様人氣にあやかりたいとも言った。

また、韓国内ではタレントの社会的地位は、それほど高くなかった。それが、ここ2、3年来、韓国の俳優が海外から意外と高く評価されるようになったので韓国人自身が驚いている。

『冬のソナタ』のドラマのヒロイン崔志宇さんが2005年の韓日文化交流拡大を進めるため「韓日共同訪問の年」と両国政府が決定、その韓国観光広報大使にも任命されている。総理官邸で小泉首相の歓迎を受けるなど大変な人気だった。俳優の力が政治家を上回ることもあると韓国の人たちも気づいてきたようだ。

芸能軽視は過去の遺物

古老の時代とはまさに隔世の感。封建時代に技能者を軽視した悪弊も過去のできごと。韓国の教育も近年、理工系を充実し科学立国を標榜して一路先進国を目指す。映画をはじめ芸能に

も政府自らが力を入れている。芸能人の地位も静かに上がりつつある。韓国も民主主義国家の一員になったものだと、自負してもいいだろうと思う今日この頃である。

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

(1) 万博・韓国の友との出会い

愛知万博の入場者数はスタート以来、好調に推移しており、最終的には1500万人という目標数を大幅に上回りそうな気配です。ただ残念なことに小泉首相の靖国参拝問題や竹島（韓国では独島）の帰属問題などの影響で、中国や韓国などアジアからの観光客は予想を大幅に下回っています。

会場を歩いていて気がつくのは、中国語は時々耳に飛び込んでくるものの、韓国語がほとんど聞こえてこないということです。淋しい限りです。

しかし、このような状況の中でも私たちは6月24日にエキスポホールで懐かしい韓国の友人たちとの出会いに恵まれました。

この日は日・韓・中三国の伝統音楽家たちで構成される著名な「オーケストラ・アジア」のコンサートが開かれたのです。私たち会の関係者も14人も招待を受け、オーケストラ・アジアが奏でる美しいアジアの音色のハーモニーに酔いしれました。

とりわけ奈良出身の在日女性で、本国で活躍している文さんが弾く伽耶琴（カヤグム）の深い響きは印象的でした。

そして公演終了後、すばらしい出会いがありました。オーケストラアジアを立ち上げた中心人物で、ソウルオリンピックや2002年ワールドカップサッカー大会の開会式（テレビで世界各国で放送されました）で音楽監督・指揮者としてタクトを振っていた朴範薫（パク・ポムフン－現在・ソウル・中央大学総長）さんと会い固い握手を交わすことができたのです。

韓国舞踊の名手で打楽奏者としても評価の高い旧知の女性、李周熙（イ・チュヒ）さんや他のメンバーとも再会を喜び合いました。

私たちのメンバーは、このほかにも万博の縁で4月と7月に、済州大学の前総長趙文富さんの一行とも出会い語り合うことができました。このような韓国のチング（友）たちとの貴重な出会いが、万博の残された期間の中でも繰り返されるよう、期待したいものです。

(2) 交流の夏” ことしはキャンプに変更

例年、8月には韓国から学生交流団を迎え奈良一泊旅行やホームステイ、歓迎パーティなどを提供してきました。しかし、今年は韓国側の事情で交流団が来ないことになり、そのかわり名古屋の大学等に留学している留学生たちを裏木曾での一泊キャンプに招待し交流を深めることにしました。このキャンプは中津川市の山中に山小屋を所有している会員の三尾和広さん、土本美恵子さんご夫妻の献身的な御協力のおかげで実現するものです。

三尾さんご夫妻の山小屋は、お二人が自力で建てた小さいログハウス数棟で成り立っており、

収容数は限られています。

留学生をなるべく多く参加・宿泊させることを前提に実施しますので、会員で宿泊できる人数は少数となることを御了解ください。ただし日帰りでの参加であれば全く問題ないので、日帰りの形で留学生との交流を楽しんでいただければ幸いです。

※キャンプ実施は9月10日(土)と11日(日)。キャンプの世話役として宿泊する会員は決定済みです。日帰り参加を希望される方は、事務局にFAXで申し込んでください。

(3) 秋に“ 望郷野遊会” を実施

韓国では秋の自然の中で、歌い踊り飲食することを野遊会(ヤユフェ)といいます。私たちも戦前、韓国で生まれ日本の敗戦で祖国に引揚げてきた熟年会員を中心に、野遊会にトライしようと思います。

韓国の各地で生まれ育ち、そこを故郷として

いる人たちの集いですから“望郷野遊会”と呼ぶことにしました。

もちろん、この会には参加者と話が相通じる同世代の会員や在日の人、そして留学生なども加わってもらいたいと考えています。現在までに決まっているのは、次の通りです。

日時	未定(10月末～11月中旬)
場所	犬山市入鹿池奥・八曾休養林
内容	イモ煮、イワナの串焼き、焼肉など検討
事務局	会事務局および熟年組代表大久保舜司さん



このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

○ 全 龍福さん(会員) の講演に聴衆“ 感動”

～ 韓日歴史・文化フォーラム ～

7月27日名古屋市の韓国人会館で、盛岡市に住む韓国人の漆・螺鈿(らでん)工芸家、全龍福(チョン・ヨンボク)さんが、「韓国の力、日本の技でつかんだ漆・らでん工芸の極致」と題し、講演を行いました。

全さんは、英語の「Japan」という言葉が漆工芸品を意味するほど日本の漆工芸の技は縄文の昔から凌駕(りょうが)していたこと、その日本の漆・らでん芸術の殿堂と呼ばれていた東京・目黒の雅叙園(がじょえん)の漆・らでん作品全部の修復・創作を死力を尽して3年がかりでやり遂げた壮絶な体験を語られました。

また盛岡に住みながらも3人の子供には韓国語や先祖を祀る祭祀(チェーサ)の方法などは厳しく教えたこと、さらに隣合う日韓両国の人々は永遠の同伴者だからと、20年も前から青少年の海を越えての交流を実践していることなどを話され、100人の聴衆は深く胸をうたれた様子でした。

講演会終了後、全龍福さんの著書のサイン会がありましたが、話に感動した人たちの長蛇の列ができ、本を手にした人たちは、全さんと固い握手をかわし、全さんから挑戦しつづける「元気」を分けてもらっていました。

○ 柳聖杰 (ユ・ソンゴル) 領事 栄転へ

韓国総領事館の領事として、この2年半、日韓市民交流の活動にまい進されていた柳聖杰領事が、8月26日、ドミニカ共和国にある韓国総領事館の参事官として栄転されます。

栄転を祝って、韓日歴史文化フォーラムに参加している人たちが8月3日に名古屋駅前のお店で歓送会を開き盛大でした。領事は「また日本に戻る機会があれば、必ず名古屋の皆さんとお目にかかりにやってきます。会の皆さんによろしくお伝えください」と話されました。

◇ 会の活動報告とお知らせ

1. 報告

1) 御寄付の報告

例年韓国からの学生交流団の来訪に際し、寄付をして頂いている方々から、この夏も善意の振り込みがありました。次の三人の方々です。

- ・ 朴美姫 (韓国語教師) 5,000 円
- ・ 松本太郎 (元 NHK 奈良局長) 5,000 円
- ・ 林清重 (歯科医) 5,000 円

御寄付は、9月に行う留学生の裏木曾一泊キャンプの費用に充てさせていただきます。

2. お知らせ

1) 秋の韓国旅行の行程決る

10月に予定していた“韓(から)の国・仏が来た道”紀行のスケジュールが下記のように決りました。

日本に仏教を伝えてくれた百済の仏教聖蹟をたどる見所の多い旅になります。1日目のポイントは百済の微笑仏の原点とされる瑞山の三尊石仏と韓国最古の仏教寺院建築である修徳寺です。

2日目は、まず紀元384年に百済に仏教を伝えたインド僧のマラナンダの上陸地や、彼が最初に建てた仏甲寺を見ます。次に弥勒寺跡で韓

国最大最古の石塔を、さらに灌燭寺では16米の巨大石仏を仰ぎます。3日目には百済滅亡の地、扶余の寺々で往古をしのんだ後、名山として知られる鷄龍山の麓にある尼僧の修行道場、東鶴寺や甲寺をまわります。そして4日目は韓国仏教の総本山であるソウルの曹溪寺などを見ます。

またそれぞれの宿泊地では現地の友人を招いて楽しい夕食をとる予定です。参加される方には当面、行程表やポイントを紹介する写真資料をお送りしますが、出発の前に旅行の説明会を下記の通り行いますので、日程を確保願います。

旅行参加者打ち合わせ会

日時 10月1日(土) 10:00~12:00

場所 名古屋駅東 愛知中小企業センター8階第二会議室

日程表

10月14日 (金)	セントレア空港 ~ 仁川国際空港 ~ (瑞山 I・C) ~ 瑞山三尊石仏 ~ 修徳寺 ~ 霊光 ~ ホテル (アリアホテル: 霊光郡霊光邑緑沙里8)
10月15日 (土)	ホテル ~ 法聖浦 ~ 仏甲寺 ~ (霊光 IC) ~ (東群山 IC) ~ 弥勒寺跡 ~ 灌燭寺 ~ 扶余一周 ~ ホテル (三井扶余ユース: 扶余郡扶余邑旧校里105-1)
10月16日 (日)	ホテル ~ 扶蘇山 (落花岩)・・・ 阜蘭寺・・・ (船)・・・ クドゥレ公園 ~ 定林寺 (昼食) ~ 東鶴寺 ~ 甲寺 ~ (高速でソウル) ~ ソウル (ソウルホテル: ソウル市鐘路区清進洞92)
10月17日 (月)	ホテル (徒歩にて)・・・ 曹溪寺・・・ 国立民俗博物館・・・ (レストラン) 昼食後 自由行動 ホテル集合 ~ 仁川空港着 セントレア空港着 解散

※申し込みが済んでいない方は、8月15日まで事務局: 後藤(0585-56-6788)まで至急 FAX で申し込んで下さい。

2) メルマガ【東海地方日韓ニュース】配信無料化について

2月より配信させていただいておりますメールマガジン【東海地方日韓ニュース】は、おかげさまで多くの皆様より好評をいただいております。メルマガの持つ社会的な使命に鑑み、読者層の一層の拡大を図るため、8月配信分より無料化することになりました。地域の韓流情報を共有するため、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

3) 豊山町での5回講座

豊山町のワールド見聞録韓国編も好評の内に4回を終了しました。そこで7月13日に行なわれた第三回講座の内容の一部を紹介します。講師はシネマスコーレの「リ・サンミ(李相美)」氏。自らの経験と信念に基づいたお話を、ビデオの解説も交えながら一時間半に亘ってお話頂き好評でした。

- ① 韓国映画の本流は人と人との運命的なしがらみを徹底的に描くもの。最近の動きの激しい映画は、観客の好みを意識しすぎで本流とはちょっと違う。
- ② これまでの映画界を支えてきた俳優は、アン・ソング(祝祭)、ハン・ソッキュ(八月のクリスマス)、ソン・ガンホ(大統領の理髪師)、チェ・ミンシクなどがある。これから注目したい俳優としては、ソル・ギョング(力道山)、チョ・スンウン(マラソン)、イ・ジョンジェ(僕の彼女を紹介します)、香港映画でも大受けしたチョン・ウソン、そしてブラザーフッドのチャン・ドンゴン並びにウォンビンだ。
- ③ ペ・ヨンジュンはテレビから映画にも進出し、こちらでも地位も固めつつある
- ④ 韓国政府が行っている映画振興策に、国内映画館での上映作品のうち、25%以上は自国で製作された映画でなければならない規定がある。これを手始めに国立の映画学校、撮影所、編集施設を設けて振興に力をいれている。それだけに、これからも素晴らしい韓国映画や俳優の誕生が期待できる。

4) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、7月23日までに受付完了されている方々です。(敬称略)

奥田 敦子	亀井 一男	鬼頭 和子
久野 みどり	山川 惟史	山田 喜代江

「留学生と行く日帰り奈良」紀行 —— 参加者の感想文

金 恵延

天気の良い5月14日の朝8時に私たちは奈良に向かうバスに乗り込みました。初めて会った人もいたし、みんなでバス旅行行くのが始めてだったため、少し緊張しましたが、すぐ打ちとけました。みんなを乗せたバスは2時間後に法隆寺に着いたのです。そこで、みんなのため、寺で二番目のえらいお坊さんが出て、お寺のことについての詳しい説明をしてくださりました。金堂や五重塔は日本はおろか世界中の木造建築物のなかで最も古くて貴重な世界遺産だと聞きました。寺には仏像や仏画など、たくさんの美術品が残っていますが、それらがみんな国宝になっています。

次のところは東大寺でした。東大寺でも大仏殿担当のお坊さんから直接せつめいをしてもらいました。最も嬉しかったことは、大仏のひざの所まで上げてもらったことです。大仏を一回

りできたし、創建当時の金箔の名残など、他の人が絶対見られない部分を見ることができてよかったです。

東大寺を出た後、鹿たちに鹿煎餅をあげたりするのたのしかったです。本当にいろいろ見れてよかったです。ありがとうございました。



2004年5月17日、日韓民間交流団体の方々と奈良に行って来ました。奈良は世界遺産が埋もれている都市としてピッタリの所で、あちらこちらに沢山の寺や神社があった。

そこで私たちは仏教文化を含む日本の宗教文化の全般を垣間見ることができました。この奈良から昔、韓国と日本の文化交流の痕跡を探せたのは無論のことであった。

バスに乗って、奈良に到着して最初に向かったのは法隆寺だった。大変きれいなお寺で全体で感じられる端正感と清潔感に魅せられました。

法隆寺は日本古代史の黄金期と呼ばれた飛鳥時代（6～8世紀）の様子をそのまま残してる寺で世界で一番古い木造建築として有名だ。

全体的に優しい感じをもたらすエンタシス様式（中央にふくらみを持つ柱で古代ギリシャローマ建築の影響）で木造建築物から韓国文化の影響を受けたと感じられる。

その中でも一番目に入ったのは木造の五重塔で上に上がるほど面積が狭くなる独特な工法である。その塔の威厳ある姿の前で蒙古侵略の時、火災で焼失され今は歴史の中だけで存在する新羅時代に建立された木造9階建ての皇龍寺を連想した。

その次は東大寺だった。東大寺の大仏はその名の通り巨大な大きさを誇る仏像だった。その巨体さと温厚な微笑みからその時代の人々の信仰の深さと技術の偉大さを感じることができ

ました。

この東大寺は修学旅行として有名なコースで、ここに来ていた楽しそうな日本の修学旅行生達を見たのもいい経験だった。

東大寺を出て奈良の鹿公園にも寄った。鹿をこんなにも近くで見たのはその時が初めてだったが人間を恐れない鹿たちが鹿公園として名所になったことは疑いもないことだろう。

一日だけの奈良旅行は短かったにもかかわらず貴重な経験でこのような経験をさせてくれた市民ネットワークなごやの会員の皆様にはもう一度感謝の気持ちを伝えたいと思います。

ありがとうございました。



「日本中部地区在日韓国人留学生会」夏季キャンプを終えて — イ・スンファン

キャンプを主催する責任者として、今回のキャンプを準備するにあたり、難しい問題点が沢山あった。留学生の試験期間と、韓国に帰る時期をなるべく避けようとして決めたキャンプの日程が、梅雨の最中だというのが、大変懸念される点だった。しかし、予想とは違って、当日起きて空を見たら、大雨は降らないだろうという確信ができて、本当に嬉しかった。今回のキャンプで一番楽しかったのは、滝の下での水遊びだった。三重県の宇賀溪キャンプ場の近くには滝が沢山あって、その周りの山に登る度に滝の下で是非泳いでみたかったのだが、今回のキャンプで、念願であった滝の下での水遊びが、ついに叶った。水遊びが終わった後緊張したのがご飯作りだった。炊飯器がなくても、今までに山で数え切れないほどご飯を炊いてきたが、17人前のご飯を焚き火で炊くのは初体験だったからだ。でも、みんなが美味しく食べる姿を

みて、とても嬉しくなった。けが等の事故もなく、メンバー全員が安全に楽しく遊べて、いい思い出になった。最後に日韓市民ネットから支援金をいただいた事に感謝します。



회원 마당

会員の広場

会員の旅行記

○ 扶余・光州の旅

会員：伊藤義郎

今年の五月、「渡辺先生と行く扶余・光州の旅」に参加しました。韓国西南部の百済の古都扶余・公州から世界遺産になっている和順の支石墓群・光州周辺の前方後円墳などをみる韓国歴史の旅でした。参加者は渡辺誠先生はじめ十七名。

渡辺誠先生は、名古屋大学教授をされたあと、山梨県立考古博物館をされておられる縄文考古学の権威です。先生は、縄文の頃には北九州と韓半島南部はクニの意識はなく、漁業を中心に人の交流があり、漁労具・農具、そしてこれらの地域の人を通じて稲作技術の伝播があったのではないかと考えておられます。又、韓国には現在、渡辺先生の教え子で大学で考古学関係の教授として活躍されておられる方も何人かおられます。

さて、五月頃はまだ教科書、竹島（独島）問題、そして反日デモなどでせつかくの“冬ソナ”ムード、日韓友好四十周年の親密ムードもどこへやら、家族は勿論参加しようとする人達からも、「韓国へ行って大丈夫？」と不安と心配ばかりでした。四月にソウルへ行った友人に様子を聞いたところ、「こんな時によく来てくれた」と歓迎してくれたし、街でも何とも無かったとのことでした。後藤和晃さんからは、韓国に入ったらできるだけ「アンニョンハセヨ」や「カムサハムニダ」を言った方がいいよとアドバイスをもらって、参加の決断ができました。

旅の初日は、百済の武寧王陵、公山城、国立公州博物館。

二日目は、扶余山城、定林寺跡、陵山里古墳群と寺跡。



三日目は、世界遺産になっている全羅南道の和順である五百基あまりの支石墓群、木浦大学博物館、明花洞前方後円墳、新徳前方後円墳、

湖南文化財研究院、そして発掘中の羅州アングル古墳。

最後の四日目は、松林の中にある発掘中の円墳と今は光州市内のマンションやビル群に囲まれるようにして眠ってる月桂洞前方後円墳を見学し、光州空港、仁川空港を経て無事帰国しました。

こうして私たちは紀元前数世紀の青銅器時代の支石墓から、百済全盛時代そして滅亡に至る七世紀後半までの王陵や遺跡・寺跡を見学しました。一方、興味が深かったのは韓国にもある前方後円墳です。これは私達が見学した明花洞、新徳、月桂洞の前方後円墳の他にも十基ぐらいが韓国に存在するといわれています。韓国の前方後円墳はいずれも五世紀後半から数十年の間に築かれ、六世紀前半には築かれなくなりました。これに対し日本の前方後円墳は三世紀に出現しているのです、韓国のものより日本が先行していることとなります。

それでは、この前方後円墳に葬られたのは誰かという興味ある問題がでてきます。説として、百済に仕えた倭人の墓ではないか、百済が梁山江流域を支配するため派遣した百済系倭人の墓、これとは逆に、百済を牽制するため倭人とのつながりをアピールする意図をもった現地家族の墓、交易などで移住した倭人の墓などの諸説がありますが、どれも決定的なものはないようです。こういう所に古代史のロマンがあり、歴史の旅の楽しさがあります。

秋には、日韓市民ネットワーク・なごやの企画で、「仏の来た道」をテーマに韓国紀行があります。シルクロードを辿って四世紀後半に韓半島に入った仏教は、このあと百五十年経って六世紀中葉に日本に入ってきます。日本の古代でも、仏教でも韓半島のそれらを少しでも知ることが理解の一助になると思います。そんなこともあって、この十月の「仏の来た道」韓国紀行を今から楽しみにしています。

話が横道にそれてしまいましたが、今回の韓国旅行においても、韓国の人々から多くの親切を受けたし、市場を歩いても、夜の繁華街を散歩していても何のひとつ不快に感じたことはありませんでした。このことを最後につけ加えて、私の“心の里帰り”でもある韓国旅行の感想とさせていただきます。

元名大教授・今名誉教授で山梨県立考古博物館館長の渡辺誠先生に連れられて、また百済の地を訪ねた。これで半島の旅は五回目。今回は何か余裕を持って窓からの景色を眺めた。日本と余り変わらない田植えの風景、しかし雨上がりの山々の姿は、古い時代から鉄の精練や陶磁器の焼成や燃料のために木々を伐採し、その植生の復活が捗っていないとされるが、日本でも滋賀・田上山の林木が、1400年前の藤原京等の造営のために伐採され、未だにその完全な復原が覚束ないとされている。でもそれだけではない何か瘦せた地味を感じさせるその様相であった。



京畿道から忠清南道に入る頃からその様相は変化し、日本に似た植生と林相を見せてくれた。ほっとする。間もなく『公州市』。真新しい国立博物館に着く。門の脇にオオテマリが出迎えてくれた。宋山里古墳群と武寧王陵出土品を中心にした

展示であるが、私の望みは別、あの高野槇（こうやまき）に会いたかった。確か館の門前に在った筈と思いつつ・・・心は上の空になって行く。韓国の学生さん達がこの古墳群をそしてその展示物を熱心に見学して行く。鶺鴒（かささぎ）が古墳の上を彷徨する。そして復元墳展示館を見学する。

すべてがレプリカと認識しつつも引き込まれて行く。磚（せん＝タイル）に飾られ築造された玄室、素晴らしい彫刻を持つ環頭大刀、3面の鏡等々三千点に及ぶ出土品に感嘆する。

当館の解説者・李寛永さんにいろいろ話を伺っているうちに、漸く自分が捜し求めている『高野槇』は旧館の門前に在り、今も健在と聞く。しかしそこへは今日は行けないのだ。その木は移植は出来なかったのここへは別に幼木を植栽したという。それは『金松』と表示されて展示館の前方に植えられまだうら若い姿を見せていた。

因にヒノキ・サワラ・クロベ・ヒバ・コウヤマキは「木曾の五木」として今も知られ、往時の木棺材の第一位に列せられ、木曾以西の日本特産のスギ科の常緑喬木である。

多分、日本で生まれ、多くの苦難を乗り越えて、百済に『斯麻王』として戻られた『武寧王』の徳を慕い、倭国から贈られたものであろうとされている。

翌日の朝は川霧の中に明けた。扶蘇山城は「五葉松」と「椴（とちのき）」の自立つ道であったか、あちこちに「落葉松（カラマツ）」も見えた。韓国でもその樹形が優れているとして、最近「落羽松（メタセコイア）」が好んで植えられている。

『定林寺址五層石塔』も今回の自分の目玉の一つ。運よく解説のボランティアの方が、自分とほぼ同年配であり日本語を良くされるので、囲いのしてある中に入れて頂き、『大唐平百済國碑銘』と大書し刻す石材の面を見せ解説して頂き、写真に収めることができた。高さ 21m という。寺院としての伽藍配置は堂塔が一直線に並び日本でいう「四天王寺式」。スケールは小さいが同様な石塔は、百済から倭国へ渡来し定住したという滋賀県に残る。

扶余の国立博物館では近くの『陵山里古墳群』等を中心に、百済文化の粋を集めて展示される。壁画古墳がそっくり模型として築造され展示されているのも感慨深い。古墳群は余りに奇麗に復元されていてお国柄を示している。ここにも学生さん達の団体が遠足・修学旅行の時期とも相まって、大勢見学に来ていたのは印象に残った。

第3日は『和順の支石墓群』から始まった。BC10～BC3 世紀にかけての、南方系の支石墓で、3年前に訪れた『長興郡有治面の支石墓群』に



匹敵する巨大さを見た。そしてここにも『ソッテ＝蘇塗』の鳥形木製品が立っていた。

この木製品の思想は、中国雲南省に発して揚子江を下り、河姆渡から北上し山東半島をへて黄海を渡り、朝鮮半島の中部から南下しその南端を経て、倭国に至った倭族の習俗を伝えるものとされている。（鳥越憲三郎）

和順を出て木浦へ向かう途中、アンコル古墳

郡の発掘調査を見学。バスを降りて現地に向かう折、正面に佇いの良い山を見る。長さ 2m にも及ぶ巨大な甕棺（かめかん）。壁の厚さが 30～40mm もある分厚いもので、5世紀が考えられるという。そしてそんな巨大な甕棺は木浦大博物館でもお目にかかった。3世紀～6世紀にかけての甕棺が考えられ、古いものは壁厚が薄く 10mm 程度以下、5～6世紀には焼成方法も進化し高温での焼成が可能となり 30～40mm の厚さを見せ、硬さも感じられた。

異形土器と表示された長壺円筒形土器が並ぶ、上部に朝顔型を思わせる広がりがある。日本ではほぼりっぱな『円筒埴輪』である。そして愛知県も『尾張型埴輪』という一形式を持つ埴輪の特産地である。

最後にお目当ての前方後円形古墳（長鼓墳）。今では柴山河流域のみにほぼ限定し散在すると

- | | | | | | |
|------------|-------------|------------|---------|------------|----------|
| ①『新徳古墳』 | ・・・全長 51、 | 前方部幅 25、 | 同高 4、 | 後円部径 30、 | 同高 5m。 |
| ②『明花洞古墳』 | ・・・全長 33、 | 前方部幅 24、 | 同高 2.7、 | 後円部径 18、 | 同高 2.7m。 |
| ③『月桂洞 1 号』 | ・・・全長 45.3、 | 前方部幅 31.4、 | 同高 5.2、 | 後円部径 25.8、 | 同高 611m。 |
| ④『月桂洞 2 号』 | ・・・全長 34.5、 | 前方部幅 22、 | 同高 3、 | 後円部径 20.5、 | 同高 3.5m。 |

- ①新徳古墳の前方部前に径 15m 前後の円墳が有り、築造時期は 1 世紀もずれるとか。この古墳は修正が成されていて原形を想像することは一寸無いのかも。
- ②明花洞古墳は、原形を外観から想定することは難しい程に改変を受けている様だ。
- ③月桂洞 1 号は念願の石室に入らせてもらう。大きさがほぼ揃った割り石を用いて、石室壁面が構築されている、上方 30%位は特に揃っている。組合せ形の石棺が数枚の板石で構成されている。見学者が多く墳丘上の順路の草が踏まれて目立つ。
- ④月桂洞 2 号は 1 号墳同様前方部の開きが大きく、後円部より広いのが目につく。

月桂洞 1・2 号墳の回りは 10 階近いマンション群の立ち並ぶ市街地の中、3 年前に訪れた時は途中で遅れここに着いた時は夕闇が迫り、ほぼ満月の月光のもとでこの 2 古墳を訪れたので、その月光に輝く光景に打たれ余り気付かなかったが、この地でよくも残されたものと感慨一入（ひとしお）である。

倭によく似たこれらの前方後円墳が、5～6 世紀の百済の地に築かれている意味、古墳に葬られる被葬者はどんな人か、想像するのが興味深い。案外仲が良かった？

第 3 日の最後は（財）湖南文化財研究所。入口に二人の銅像が並び立つ。

1 は李舜臣＝東郷平八郎が軍師と仰いだ海軍の名将。壬辰倭乱で日本水軍を撃破した朝鮮水軍の指揮者。英国のネルソン提督？

2 は世宗大王＝韓国国民の団結の礎の一つ、ハングルを完成させた功績は偉大だ。

粘土紐の積上げ跡が伺えるような練りの深い円筒形の「異形土器」「銅剣鑄型」を見せて頂く。旧学校の校舎という古色蒼然とした建物の雰囲気良かった。

最終日、月桂洞 1・2 号墳を出て空港への途中で、渡辺先生から『光州を象徴する山』と聞

考えられる、13 または 14 基の日本で言う前方後円墳。

昨年 3 月、東京国立博物館で開かれた日本考古学会で、林栄珍教授が発表された、その一覧と被葬者と築造背景はまだ目に新しい。その内 5 墳に横穴式石室が確認され各部の測量値が示されている。そのうち次の 4 墳を訪ねた。

いた『無等山＝ムドンサン』を見ることができた。左右対称のダブルの山形が感じ取れた。そうしてもう一か所発掘。現場を見学する事が出来た。『西玉古墳群』と称するやはり 5 世紀代の古墳群。完形で藍色をした壺型土器が印象に残った。塗ったものではないと思われるが、他に割れたものからは内部は赤茶色で表面は両面ともきれいな藍色を呈しているのが確認できた。径 20m 程の藪の中の円墳群である。

藪（やぶ）を抜ける時「サルトリイバラ」の今年の白い実、去年の赤い実が一本の木で併せ見られた。



○「ハンゲルブログに挑戦」

会員：南 和也

こんにちは。ご無沙汰しています。皆様お元気でしょうか。実は家を建てる事にしましたので。子供が 3 人なので手狭になったのがきっかけです。そこで家づくりを記録に残そうと思い、なんと韓国語でブログを開設したのです。

是非一度立ち寄ってみてください。初心者なので作り方がよくわからず大変苦勞しています。是非アドバイス下さい。

ブログアドレスは以下の通りです。
<http://blogs.yahoo.co.jp/kjmadang2005>

○「風・たおやかに」——— 会員：大西さおり（サッカー部長）

「生きること、信じること、守ること、そして愛すること。その線上に歌がある。」と李京順は語る。

すべてに感謝の心を抱きつつ熱く優しさあふれるその歌声は、聞き手の心を新たな感動と豊かな躍動感に満たすと評される…。

あらゆるジャンルを問わず幅広いレパートリーを有し、またW杯はじめ数多くの海外サッカー観戦経験を持つ彼女がオリジナル曲も交えつつ、ヨーロッパ-朝鮮半島-日本-アメリカ大陸へとみなさんをサッカーを通して世界一周の旅にご案内します。

ステージは二部構成（前半&後半）。

♪李京順 プロフィール♪

歌とピアノとトーク、そして軽い食事とお飲み物を楽しみながらゆったりとした時間を過ごしてみたいかかでしょうか？



平壤出身の故父、大邱出身の母との間に東京にて生まれる。

7歳よりピアノと歌とを習う。

小中学校の間「松村頼子」の名でNHK児童合唱団にて「みんなのうた」等レギュラー出演。

中学よりクラシック声楽を故鈴木弘子女史、ピアノ・ソルフェージュを古橋富士雄氏に師事。

朝鮮大学卒業後、音楽活動に入る。

ソロ歌手として1989年より活動開始。

1991年李京順リサイタル「風たおやかにコンサートシリーズ」初演し、以後ライブ活動のかたわら40回を数える。

その間各地を回り、地域密着全国演奏活動を展開。

現在千歳の「Live Lee」ほか、浦和を拠点に音楽活動中。

《李京順 Lee Kyong Sun ライブ「風・たおやかに〜秋に歌う〜」》

日時 9月30日（金） 午後8:00〜

場所 POP CORN

名古屋市昭和区広路町石坂38早川ビル1F

地下鉄八事3番出口より八事交差点方面すぐ

P八事石坂24時間駐車場利用可

<http://www.cafe-popcorn.com>

TEL 052-833-1953

料金 ¥3000（2ドリンク付）

チケット予約はPOPCORNまで

その他「風・たおやかに〜秋に歌う〜」

ツアー予定

9月29日 名古屋・栄「DOXY」

10月2日 京都「パリ野郎」

10月3日 浦和「アトリエ杉本」

서울 통신

韓国光明市在住 二日市 壮さんのソウル便りです。

韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。

今後とも期待しております。

○反日の嵐 ひとまず収まる——— 韓国光明市在住 会員 二日市 壮

均衡ある発展へ政府関連機関を分散配置

ソウルでは反日の大嵐もひとまず収まって、日韓友情年の行事が少し冷めたムードの中、進められている。しかし先日行われた「NHK のど自慢イン・ソウル」は、両国の文化的一体感を感じさせた。歌は国境を超えるのだと思った。北朝鮮の核兵器開発をめぐる北京での6カ国協議も13カ月ぶりに再開され、韓半島の平和に光が見えてきた。

先頭に立っての日本非難で、「よくやっている」と、一時は支持率を高めた盧武鉉大統領は、その効果が4月30日の再選挙には及ばず、与党ウリ党は惨敗した。再選挙は選挙違反などで議員が失格した場合に行われ、当選した議員が死亡したり辞任した場合の補欠選挙とは区別されている。今回、再選挙が行われた6つの選挙区のうち5選挙区は、去年春の総選挙でウリ党議員が当選していたが、1年足らずのうちに選挙違反の罪が大法院（最高裁）で確定し失格した。

選挙の結果、野党ハンナラ党が5、保守系無所属1で、ウリ党は1議席も取れず、過半数に4議席足りない状態（146議席）が続いている。革新野党の民主労働党（10議席）の協力で成立させた議案もあったが、盧武鉉大統領は民主労働党と民主党（10議席）に連立政権づくりを呼びかけている。

さて首都を首都圏の南にある忠清南道公州・燕岐地区に移転させる法律は、去年10月、憲法裁判所から憲法違反と判定されて効力を失ったが、政府与党は首都移転にこだわり続け、ハンナラ党の多くを抱き込んで、3月2日、同じ地区に建設する行政中心複合都市法という新法を成立させた。

ここには財政経済部、教育人的資源部、文化観光部、科学技術部など12部（部は日本の省と同じ）と4処2庁を移転させることで、与野党がすでに合意している。このほか43ある国策研究機関のうち移転部署と関連のある韓国開発研究院など研究機関24もここに移転させることになった。

この結果、ソウルに残るのは、大統領府、統一部、外交通商部、国防部、法務部、行政自治部、女性家族部、それに国会、大法院、検察庁だけとなる。

これでは首都を分割することになり、前の違憲立法とほとんど変わらない代替立法だとして、ソウル市や第2政府庁舎群がある京畿道果川市の住民ら222人が6月15日、再び、この法律も憲法違反だとする訴えを憲法裁判所に起こした。

憲法裁判所の判断が注目されるところだが、日本では考えられない盧武鉉政権の思い切った

決断がもうひとつある。それは地方の均衡ある発展を目指して、現在、ソウルと首都圏、大田に集中している政府関連機関のうち176機関を全国に分散移転させることだ。これは政府だけの判断でできる。

6月24日、2年かけて調整した結果を発表した。一番人気のある韓国電力の本社は光州市に決まった。移転機関の数は北から、江原道13、忠清北道12、忠清南道41、全羅北道13、全羅南道15、光州市3、済州道9、大邱市12、慶尚北道13、慶尚南道12、蔚山市11、釜山市12。移転は2012年までに終わらせることにしており、首都圏の人口は7、80万人は減るのではといわれている。

かつての韓国第3位の財閥、大宇（デウ）の創業者で、大宇が巨額の粉飾決算で成り立っていたことが明るみに出た99年秋から海外に逃亡していた金宇中（キム・ウジュン）前会長（69）が、6月14日、5年8カ月ぶりに韓国に帰国し、詐欺などの容疑で検察に逮捕された。

金宇中容疑者は、一代で大宇財閥を築きあげたが、粉飾会計で会社が好調のように見せかけていた。そして韓国繊維産業連合会長、大韓サッカー協会会長、さらには日本の経団連にあたる全経連会長、つまり韓国の経営者のトップに登りつめた。だが、これらは砂上の楼閣だったのだ。検察によれば、粉飾会計額は実に41兆ウォン、これを利用して9兆2000億ウォンの銀行融資を受け、25兆ウォンもの財産を不法に海外に持ち出した、会計法違反、詐欺、外国為替法違反などを問われている。また30件以上の民事裁判も起こされている。

4月29日、大宇の元の経営者34人に対して、最高懲役5年、追徴金総額23兆ウォンの判決が大法院で確定した。その後、残った大宇の上場会社10社の資産価値が11兆8500億ウォンと5年前に比べて5倍になった、などの地ならし報道がなされたあと、金宇中容疑者は帰国した。

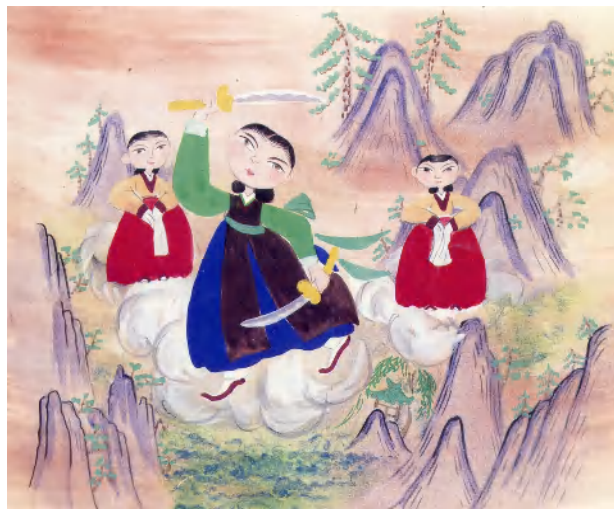
これまでの取り調べで、18年前にフランス国籍をとった時から、韓国の国籍を失っていたこと、去年は北朝鮮に行って新義州特区開発の相談を受けていたことが分かった。金宇中容疑者は病気を理由に拘置所から一時、大病院の特別病室に移されるなどの特別扱いを受けている。大統領をはじめ、早くも同情発言が相次いでいる。こうした点に韓国らしさを感じる。

1965年の日韓基本条約締結の際の外交文書公開にともなって、今年2月から受けつけが始まった日本による強制連行被害の届け出は、

6月末でひとまず締め切ったが、19万572件の申告があった。労働者としての強制連行が一番多くて13万4000件、次いで軍人・軍属5万6000件、慰安婦300件だった。1件ずつ審査が行われているが、補償をどうするかはまだ決まっていない。補償金の一部は、日本に求めることになりそう。

一方、4月国会で成立した「真実と和解のための過去史整理基本法」が、これから4年間の活動を始める。これまで明らかにされていない抗日独立運動、戦後の民間人集団虐殺、軍事政権下での隠された事件などが対象だ。

日韓友情年の後半イベントと、盧武鉉政権による歴史を正す作業が同時に進められる。



◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。会員の皆さんからの情報も待っています。

1) 志多ら & コットセイ公演 ～出会い～

韓国より伝統演劇団「コットセイ」を招き、文化の違いを越えた舞と舞、打と打の共演の世界を広く一般の方々に見ていただく。コットセイと志多らは4年来交流を続けていて、共通の夢、友情のあかしとして今回のコンサートを企画しました。

・開催場所と日時

8月14日(日) アイプラザ豊橋
15:00 開場 / 15:30 開演
8月16日(火) 春日井市民会館
18:00 開場 / 18:30 開演

・問合せ：志多ら
TEL0536-76-170 FAX0536-76-1763
Mail: info@shidara.co.jp
HP: <http://www.shidara.co.jp/>

・料金 S席 4,000円(当日4,500円)
A席 3,500円(当日4,000円)

編集後記 (2005/8/1)

会報 No. 30 をお届けします。暑い日が続いておりましたが、皆様お元気でしょうか？会報もついに30号です。毎回たくさんの記事が載せられるということは、会の活動が活発な証拠です。そんな中、夏恒例の訪問団を迎えてのパーティーがないのは少し寂しいですが、いつも料理や会場作りを手伝って頂ける方々にとっては一休みですね。次のパーティーはひょっとして少し豪華になったりするんじゃないかと期待しましょう。

池貴己子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1995年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田10-4
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp